



令和5年度の取り組みの一部をご紹介します

生産基盤の強化

産地の維持・拡大に向けた農業振興の強化

農業生産の振興

★スマート農業を導入し生産性向上

各地区でブランド米の生産拡大に向けて、ドローンでの直播、水位センサー、自動給水ゲートなど省力化の実証試験を進めています。また、温暖化対策として、高温障害が出にくい新品種「にじのきらめき」の導入も進めています。



「にじのきらめき」を導入した富士宮地区

★あぐりチャレンジ事業

生産組織の新たな取り組みを支援するあぐりチャレンジ事業。令和5年度は22件の取り組みに対して合計助成金額1,805万円を採択しました。新たな生産技術の導入や作業の効率化、商品PRなどさまざまな事業をJAと一体になって取り組みました。



伊豆の国地区ではイチゴ栽培に天敵資材を導入

★あぐりキューピッドの利用促進

無料職業紹介所の「あぐりキューピッド」利用促進を通じて、地域農業の人材確保や農業雇用の創出などを行っています。令和5年度は、組合員が出演する職業紹介動画も作成し、あぐりキューピッドの利用促進を図りました。



組合員出演の職業紹介動画

★レモン生産拡大始動

柑橘サミットや生産組織とJAとの意見交換会を経て、レモンの生産拡大が決まりました。国内レモン栽培発祥の地は管内熱海市。発祥の地のブランド力で、栽培面積を令和13年には20ヘクタールに増やしていく計画です。



営農アドバイザーと話すレモン農家(右)

ブランド力を生かした販売の強化

★ワサビ販売好調

コロナ禍明けによる業務用需要の増大や海外輸出増などによる好影響の波に乗り、ワサビ販売高は令和4年度に引き続き、計画を大きく上回る見込みです。当JAでは生産者と営農アドバイザーとの連携を強化し、さらなる高品質栽培を目指しています。



好調な売れ行きを見せるJAふじ伊豆のワサビ

★販売物流プラットフォームによる充実

ファーマーズマーケットを軸として、組合員の生産した安全で新鮮なおいしい農畜産物を直接消費者に届けています。各ファーマーズマーケットを結ぶ販売物流プラットフォームやECサイトも活用し、販売力の強化に努めています。



管内産を豊富にそろえる店内

★統一茶飲料の企画・開発

ふじ伊豆ブランドの強化、スケールメリットの発揮などを目指し、管内産茶葉を使用した統一茶飲料の企画・開発を行いました。今夏の発売を目指し、現在、味や商品パッケージなどを決定する最終段階に進んでいます。



なんすん・富士・富士宮の3地区が主な茶産地

組織基盤の強化 組合員の拡大とアクティブメンバーシップの確立

★生産現場の意思反映へ

主要品目と地域戦略品目の生産組織と当JA役職員の意見交換会や、管内各地区の運営委員会の代表者が集まる地区本部運営委員会代表者会議などを開催。JAのさまざまな事業に組合員の意思を反映させています。



JAへの要望などを意見交換



沼津市西浦地区から市街地方面

令和5年度

を振り返る

2か年計画も折り返し地点

JAふじ伊豆では、令和5年度から6年度にわたり、2か年計画と自己改革工程表を実践しています。計画にもとづく取り組みも折り返し地点を通過しました。今回の特集では、営農事業を中心に令和5年度を振り返ります。

2か年計画の初年度を終えて

はじめに本年元日に発生した「令和6年能登半島地震」で被災した皆さまにお見舞い申し上げます。亡くなられた方々に哀悼の意を表します。当JAといたしましても支援物資の提供など被災地支援に取り組んでまいります。

さて令和6年度を迎え、「JAふじ伊豆2か年計画」組合員とともに創造「農業と協同の未来」・「自己改革工程表」持続可能な農業・地域共生の未来づくり「もちようど折り返し地点を過ぎたところ」です。

依然として農業を取り巻く環境は生産資材価格の高騰や生産者の高齢化と担い手不足、自然災害の頻発などにより厳しい状態が続いています。

この状況に対し、同計画では持続可能な地域農業の確立を目指し、生産基盤の強化を重点取り組みとした中で、農業生産の振興・販売強化に努めています。

代表理事組合長 梶 毅



生産振興を支える施策としては、スマート農業や生産資材助成制度の導入、労働力支援や新規就農者支援などさまざまな取り組みを実践し、産地の維持・強化を進めています。農産物販売事業では、令和5年度は野菜などにおいて主要品目であるワサビなど、販売単価が高く順調に推移しました。また、販売物流プラットフォームを最大限活用し、ファーマーズマーケットの品ぞろえの充実や販路拡大を図りました。

各部署においては、課題への意識を常に持ち、事業計画の完遂(目標)と農家組合員の皆さまの農業所得の向上(目的)を目指していきます。



# 1年を振り返って

各組合員組織の皆さまに1年の振り返りを伺いました。

JAふじ伊豆青壮年部  
部長  
いなばたくや  
**稲葉 拓也**さん

青壮年部に加入して5年目で部長という大役を務めさせていただきました。周囲の支えによって成し遂げてきた活動と感謝しています。

三嶋大社新嘗祭への奉納野菜の収集、イチゴの勉強会のほか、インボイスオンラインセミナーも新たに開催しました。また、JA組織活動実績発表大会で、盟友の勝又正登さんが、県、東海北陸大会を勝ち抜き、全国大会に出場して優秀賞となり、私たちに力を与えてくれました。



JAふじ伊豆女性部  
部長  
よしだかよこ  
**吉田 加代子**さん

他地区の女性部と交流することで気づきがあり、実りある1年でした。8地区の間で1対1の地区交流会を進めていくのと併せて、今後は全地区対象のリーダー研修会や交流会を開催し、大規模JAならではの女性部活動にしていきたいと思ひます。

各地区の事務局職員同士の連携もできていて頼もしく感じます。各地区の良いところを広め、課題はみんなで解決できるようにしていきたいと思ひます。



御殿場地区  
ファーマーズ御殿場  
出荷者協議会  
前会長  
かつまたみつり  
**勝又 満則**さん

御殿場地区の生産の多くは少量多品目の野菜栽培です。ファーマーズマーケットにはスーパーでは扱っていない珍しい農産物が並ぶことで来店客の楽しみが増えます。それが強みだと感じています。

今後も出荷会員同士が切磋琢磨し、高品質な農産物を出荷していくと共に、コミュニケーションをとり、困った時には助け合い、情報交換をするなど、会員にとっても「楽しい場」になるよう努めていきます。



地区本部運営委員会  
代表者会議  
会長  
むらまつこうき  
**村松 孝規**さん

会長として重責を担っていると感じていますが、力まずに一生懸命皆さんの意見を取り入れ、良い運営をしていきたいです。JAふじ伊豆になって組合員の意見を伝える場が多くなり、地区の組合員の声もすっかり本店に届いています。

一方で、合併の成果を出すために急ぎすぎていると感じることも多いです。慌てずにゆっくりとより良いJAにしていけたらと考えています。



## 組合員・地域の皆さまからのメッセージ紹介

なんすん地区 女性

産直市に二十数年来、野菜と加工品を出荷し、日々楽しく過ごしている高齢者です。自分の作った品をお客さまが買ってくださり感謝の気持ちでいっぱいです。



長年の出荷ありがとうございます！  
たくさんの消費者の皆さまが待っています。今後もおいしい農産物の出荷をお願いします。

なんすん地区広報担当  
大嶋 知美

三島函南地区 女性

他県出身で新規就農された方の広報誌の記事が一番興味深かったです。軌道にのるまでの不安はあるでしょうが、JAが支援している様子が伝わってきました。



三島函南地区広報担当  
松田 健太郎

当JAでは、新規就農者の皆さまを支援しています。農業に興味のある方は、ぜひお近くの営農経済センターまでご相談ください。

伊豆の国地区 男性

相続対策セミナーに出席しました。いろいろな問題の解決策として参考になりました。これからも誰もが理解しやすいセミナーを開催してください。



ご参加ありがとうございます。組合員・地域の皆さま向けに各種セミナーや相談会を開催しています。今後もぜひご活用ください。

伊豆の国地区広報担当  
梅原 綾花



御殿場地区 男性

地域性のある農産物が豊富な東部地域は野菜作りの熱心な地域だと思います。



御殿場地区広報担当  
井上 郁子

富士山頂から、伊豆半島石廊崎まで広大な管内では、さまざまな農産物が栽培されています。組合員の皆さまが当JAと共に、地域農業振興に取り組んでいます。

## からのメッセージ紹介

伊豆太陽地区 男性

甘夏を出荷していますが甘夏の単価は上がりず、苦しいところですが、広報誌の若い人の取り組みを目にして希望が湧いてきます。



伊豆太陽地区広報担当  
平野 美紀

青壮年部の皆さまを中心に、若手担い手農業者もがんばっています！ぜひ応援をよろしくお願いします。

あいら伊豆地区 女性

レモン栽培に興味を持ちました。JAふじ伊豆がレモンに力を入れていくのであれば、わが家も挑戦してみようかと思いました。



当JAでは、国産レモン栽培発祥の地として、レモンの産地化を目指しています。一緒に栽培に取り組みましょう！

あいら伊豆地区広報担当  
川口 亜紀子



富士宮地区 女性

ファーマーズマーケットは、生産者さんの顔と商品が写真で分かり安心です。こだわりのおいしい農産物を買に行きたくなりました。



富士宮地区広報担当  
石川 里紗

JAは生産者の皆さまと、消費者の皆さまをつなぐ役割も担っています。ぜひ、お近くの直売所・ファーマーズマーケットにお出かけください。



富士地区 男性

農業は担い手不足、資材価格の高騰など課題が多いです。JA職員と組合員で考え、機械化や農業用ドローンの普及などを進めてほしいと思ひます。

当JAでは、省力化と効率化などを目的に、ドローンをはじめ、スマート農業の普及に取り組んでいます。今後ともご期待ください。

富士地区広報担当  
及川 友希子

